

私と音楽 ~ みんなの「おすすめ1曲」~ (WEB投稿分)

ジャンル	投稿ネーム	おすすめ曲	投稿者コメント	ライブラリストコメント
クラシック	かんざし	レオ・ドリーブ「バレエ コッペリア(抜粋)」 スイス・ロマン管弦楽団、アンセルメ指揮	母がバレエを教えていて、バレエ音楽をよく聴いていました。同じ曲でも聞くのではなく踊りやすいものを、ということではある指揮者のアルバムがありました。コッペリアは好きな曲です。このアルバムが一番金管楽器の音が華やかで、テンポも速すぎず踊りやすいということで母のお気に入りです。	バレエ音楽が身近にある環境、素晴らしいですね。アンセルメ指揮のスイス・ロマン管弦楽団のコッペリア聴いてみました。とても色彩豊かな音色ですね。バレエのステージも検索し、ローラン・ブティ版のコッペリアなど見入ってしまいました。ご紹介、ありがとうございます！
クラシック	まされお	「冬」		ヴィヴァルディの「四季・冬」でしょうか。ヴィヴァルディの中でも私もとても好きな曲です。荘厳で冬の厳しさを感じる、まさにこの時期にふさわしい曲ですね。
クラシック	岡野正人	モーツァルト「アイネクライネ・ナハトムジーク」	曲の冒頭からの旋律の完成度に、いつも感動します。西洋クラシック音楽の初期に、これだけの完成度と感動を与える曲が作られていたことに驚きます。流石のモーツァルトです。	モーツァルトと言えば、このセレナード！クラシックをあまり聴かない人でもこの曲は一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか。改めて聴いてみると旋律の素晴らしさ、完成度に鳥肌が立ちます。
クラシック	しら・ひろミュージック	マスカーニ「歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》間奏曲」	新国立劇場の音楽ホールで、室内楽団による演奏を聴いた後、しばらくの間、旋律と音の美しさから、自分の周りの空気が「音楽」の余韻で包まれている感じがしました。オペラ間奏曲の名曲だと思います。	目を閉じるとシチリアの美しい情景が浮かぶことができます。優雅で美しいだけでなく切なさもあいて、やわらかな光に包まれているようです。「音楽の余韻とやわらかな光」まさに一日の終わりに聴きたい音楽です！
クラシック	山田一佐	ドヴォルジャーク「交響曲第8番 長調」 指揮：藤岡幸夫（日本フィル）	現在は関西フィル首席指揮者として活躍している藤岡幸夫ですが、彼の父が私の大学の1年先輩で親しくお付き合いがあり、1995年マンチェスター室内管弦楽団の首席指揮者に就いた頃から注目し、初めて日本でデビューした後、彼が指揮する演奏会を数え切れなく聞いた。平成天皇皇后両陛下が臨席されたサントリーホールでの日フィルのコンサートが忘れられない。	指揮者の藤岡幸夫氏はそのようなご関係だったんですね。ドボルジャークはチェロ協奏曲をよく聴きます。第8番、改めて聴いてみると、もっともドボルジャークらしい交響曲かもしれないと聴き入ってしまいました。東京シティアフィルの定期演奏会など、今度行ってみたいと思います。
クラシック	こたろう	ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」の中の「かくわしい番りがくゆり（狂乱の場）」 アンナ・ネトレブコのアルバムで「THE BEST OF ANNA NETREBKO」	後半からの技巧的なソプラノがたまりません。	恋人と引き裂かれ正気を失ったヒロインが延々と「狂乱の場」で歌い続けるアンナ・ネトレブコの透き通るソプラノから深い悲しみが伝わります。6月に上映されるMETライブビューイング トゥーランドット役ですので楽しみにしています！ <a href="https://eiga.com/movie/95912/">https://eiga.com/movie/95912/</a>
クラシック	JM	モーツァルト「クラリネット五重奏曲」	クラシックへの道を開いてくれた曲で、3ヶ月間の曲ばかり100回以上聴きました。	クラリネットと弦楽の音色の絡みが素晴らしい1曲ですね。心を豊かにしてくれる気がします。
クラシック	nishimatsu	バッハ「G線上のアリア」	イライラしている時も心が落ちつきます。	切なく美しい弦の調べが、聴く度に心を浄化させてくれるような、とても神聖な気持ちになりますね。奇立つ心を落ち着かせる、バッハの曲にはそんな作用があるように思います。
クラシック	ちい	ショパン「華麗なる大円舞曲」	どんなときに聞いてもとても華やかな気持ちになれる曲。バレエのレ・シルフィードでも使われているので、華麗に踊る姿が目につきます。（昔ピアノで弾いたときは必死でした。。。）	この曲、弾かれるんですね！素晴らしいです。聴いていてもとても華やかな、そして軽やかな気分になれる名曲ですね。
クラシック	れいなじょー	ヨハン・シュトラウスII世、歌劇「こもり」より「シャンパンの歌〜ぶどう酒の燃える流れに」	先日、NHKのニューイヤーオペラコンサートで聴いて、なんと楽しい歌だ！とテンションが上がった曲です。毎年ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートで「こもり」序曲は馴染み深かったのですが、今回オペラで拝聴して、改めて魅力を感じました。歌手の方が次々に入れ替わって歌うところも楽しくて大好きです。今、なかなかみんなで楽しむグラスを傾けるという機会がもてない中、こんな風に楽しく飲みかわせる日がまた来ることを願って、この曲をご紹介させていただきます。	皆がグラスを手に踊りながら「ほめたえよう すべての酒を。シャンパン最高！乾杯！！」と何度も乾杯が続き盛り上がりすぎますね。最近心から笑ったのはいつだったかな？と思いました。本当に早くみんなで乾杯したい〜♪
クラシック	クララバッハ	①バッハ「左手のためのシャコンヌ」福間光太郎 ②ブラームス「ピアノソナタ 第3番」アシュケナーズ ③ショパン「ノクターン 第13番」吉川隆弘 ④ラフマニノフ「前奏曲 第5番」アレクシオ・バックス	思い出深いのはブラームスのピアノソナタです。この曲を弾きたくて40歳を過ぎてレッスン再開しました。先生からは、その前にと2年くらいいろいろな曲を弾かされ、やっとたどり着き半年がかりで教えて頂きました。私も頑張りましたが、先生の忍耐力には今でも感謝しています。音の出し方から指導して頂きました。ある時、「今日はとても綺麗な音が出ています。ほら鳥たちがこんなに囁きつて」と言われた日は嬉しくて忘れられません。	ブラームスのこの曲を弾くためにピアノレッスンを再開されたなんて素晴らしいです！（アシュケナーズは大好きなピアニストです。）先生のお言葉も素敵ですし、この4曲を選ばれたクララバッハさんのセンスも素敵です。
クラシック	SAYA	①ヴェルディ「レクイエム」 マエストロ、リカルド・ムーティ指揮、シカゴ交響楽団 ②ショパン「4つのバラード」クリスチャン・ツィメルマン	①レクイエムは宗教曲なのですが、モーツァルト、フォーレのものと並んで3大レクイエムとされるヴェルディの作品はドラマティックで美しい旋律も多いので普段よく聴いています。いろいろな感情が引き出されていくうちに心が整う感じがします。ムーティ&シカゴ響は最強の組み合わせ。音が素晴らしいと感心しています。 ②ショパンコンクールが話題ですが、過去のコンクール優勝者の中でも一番好きなのがポーランド出身のクリスチャン・ツィメルマン。冷静な演奏の中に熱い炎を感じる演奏。来日も多く、その度に演奏会を聴きに行くくらいのファンです。	ムーティ&シカゴ響のヴェルディのレクイエム、YouTubeで2019年の来日公演のダイジェスト版を視聴したのですが、素晴らしいですね。再来日の際はぜひ足を運びたいです。クリスチャン・ツィメルマンもぜひ一度生演奏を聴いてみたいです！羽生選手がツィメルマン演奏のバラード第1番を使われていましたよね（すみません、羽生選手ファンなんです。）
クラシック	muna	バッハ「マタイ受難曲」	人類の至宝、合唱曲の最高峰。 合唱団に所属しています、サントリーホールで歌ったことが貴重な経験です。	荘厳な響き、圧倒的な存在感、まさに至宝、合唱曲の最高峰だと思います！サントリーホールで歌われたんですね、素晴らしいです。私は第九で挫折しました。。。。
クラシック	Jin	スクリャービン「エチュードOp.8-12」 Horowitz in Moscow収録	約60年振りに故郷ロシアに帰国した巨匠ホロヴィッツの凱旋コンサートのライブ。観客の熱気も相まって伝説的なライブとなっています。一曲目のスカララッティから唯一無二の演奏ですが、特にスクリャービンは圧巻で、ホロヴィッツの他のどの録音よりも迫力、気力が感じられます。	ホロヴィッツのスクリャービン、拝聴しました！この時、御年81ぐらいでしょうか。圧巻の演奏、気迫にゾクゾクしました。ホロヴィッツはラフマニノフのピアノ協奏曲第3番が好きなのですが、これは伝説に残る名演ですね。
クラシック	バコフ	レオ・ドリーブ「シルヴィア」	しっかりした骨組みを持ちながらも、あっさりしていて、メロディアスな、レオドリーブのバレエ音楽が好きです。	アンセルメ指揮のスイス・ロマン管弦楽団のコッペリアを上げてくださった方がいましたが、シルヴィアもとてもメロディアスで舞台が目につかぶようです。
クラシック	岡村 貴	グノー「アヴェ・マリア」川島成道演奏	ボーイスカウトの指導者研修の朝のミーティングで聴いた時の感動が忘れられない。	グノーのアヴェ・マリア、とても好きな曲の一つです！川島さんのヴァイオリンの細やかな音色も素敵ですね。アヴェ・マリアと言えば、シューベルトが有名ですが、グノー、カッチーニ、そしてピアソラ、美しさも悲しさが相まってどれも好きです。小・中学生の頃、ガールスカウトに所属していました！
クラシック	Cathy	ブッチーニ「トゥーランドット」	個人的な偏見で、音楽の集大成がオペラと考えて、その頂点に立つのがブッチーニのトゥーランドットです。1998年北京の紫禁城で上演されたとき、私が貧しい学生で、とても行けそうにもなかったのですが、生きているうちに、ぜひ一度紫禁城で見たいです。1998年の映像です。 Turandot at the Forbidden City of Beijing <a href="https://www.imdb.com/title/tt0205483/?ref_=vp_back">https://www.imdb.com/title/tt0205483/?ref_=vp_back</a>	ご投稿を拝見しすぐ映像を鑑賞しました！本物の紫禁城が舞台、そしてチャンイーモウ監督。スケールの大きさと豪華さがただただ圧倒されました。まちがいなく最高のオペラ作品です！よりオペラが好きになりました。
クラシック	しま	ビバルディ「春」	高校時代、音楽の授業で聴いて、のち、バイオリンの葉加瀬太郎（クライズラー&カンパニー）が、アレンジして演奏しているのを聞いて、衝撃を受けた。	高らかに春を告げるようなビバルディの「春」いいですね！クライズラー&カンパニーの「春」は確かに衝撃的でした。ジャンルの壁を壊し融合させた彼らの功績は大きいですね。
クラシック	ぶちこ	ベートーヴェン「皇帝」	厳格な父に対して子供の頃距離を感じていたが、大人になってクラシックコンサートと一緒に帰った帰りの車の中で、この曲が好きだという話しをしてきて、それ以来自分も大好きになり、色々なピアニストさんの弾く皇帝を聴きにいっている。なんとも壮大で堂々とした太いエネルギーを感じ、やる気が出る。	お父様とのエピソードとても素敵ですね。私も仕事人間だった父が通勤の車の中でもいつも音楽を聴いていたことを知り、父が好きだった曲をよく聴くようになりました。ぶちこさんの投稿のおかげで「皇帝」を聴き比べています。やる気が出る感じわかります！何事も打勝つことができるような気にさせてくれますね。
クラシック	y.s.	ラフマニノフ「交響曲第2番 第3楽章」	指揮者ネルソンスがサントリーホール（東京）で素晴らしい演奏会を披露した時の思い出の曲。	ネルソンス指揮ポストン交響楽団のコンサート行かれたのですね！この曲の第3楽章は目覚めにいつも聴いているくらい好きです！コロナが収束して海外のオーケストラが以前のように来日して欲しいですね。
クラシック	ruru	ショパン「2つのノクターン（第17・18番）作品62」		ショパン生前最後のノクターン2曲ですね。ひたすら美しく、特に18番はずっと聴いていたくなります。ruruさんはピアノをされている方でしょうか（私は小学生の時に挫折しました🐼）
クラシック	ひろあーる	ビゼー「アルの女第1組曲第2曲メヌエット」 クリュイタンス指揮パリ音楽院管弦楽団	短い間奏曲ですが旋律が流れる（うねる）感じがたまらなく好きですね。同第2組曲第3曲のメジャーなメヌエットではない方です。テクニクを超えたバランスを感じるクリュイタンス指揮パリ音楽院管弦楽団の老練な演奏でどうぞ♪	ひろあーるさん、改めて「アルの女」を聴いてみました。前奏曲からのこのメヌエット、とてもいいですね。クリュイタンス、知りませんでした。ラヴェルなど色々聴いてみたいと思います。
クラシック	yumi	ショパン「別れの曲」		私もショパンの作品の中で特に好きな1曲です。美しく物悲しく、中間部は激しく、ショパンがどのような思いでこの曲を書いたのか思いを馳せながら聴き入ってしまいます。
クラシック	sun	ショパン「バラード1番」	最後のピアノの発表会でトリで弾いたものです。自分自身のピアノの集大成です。	sunさん、この曲が弾けるなんて素晴らしいです！すごいですね！この曲は何度聴いても心揺さぶられるものがあります。
クラシック	かな	ヨハン・ゼバスティアン・バッハ「主よ、人の望みの喜びよ」	この曲を聴くと心穏やかになり、冷静にもの考えることができるから	この曲を聴くと確かに心穏やかになるというか、浄化されるような気持ちになりますね。チェロの練習曲として弾いたことがあるのですが、弾きながら心を整える感じでした。
クラシック	Viva Espana	フランシスコ・タレガ「アルハンブラ宮殿の思い出」	学生時代に初めてこの曲を聴き、社会人となってスペインへ旅行、実際にアルハンブラ宮殿を訪れた時は、本当にこのアンダルシアの古城の中をトレモロの調べが流れているような美しさで、とても感動しました。	美しい曲ですね。アルハンブラ宮殿、いつか訪れてみたいと思っていました。この曲を思い出しながら、Viva Espanaさんのように城内を歩いてみたいですね。

※文章等の無断転載及び複製等はご遠慮ください。

私と音楽 ~ みんなの「おすすめの1曲」~ (WEB投稿分)

クラシック	もも★たろう	ヨハンシュトラウス「葡萄酒の燃える流れに」	先の見通せない世の中だからこそ、シャンパーニュを呑んで明るくいこう といふ何とも言えない曲の空気が好きで、シャンパーニュを楽しみたいときにうってつけです。椿姫の乾杯の歌は、物語が切なくて曲を聴いてもしみりしてしまうのですが、この曲は今を楽しもう！何とかなる！という気分してくれます。	この曲を聴きながら思わず自分の手に乾杯用のグラスを持ち、一緒に口ずさみながら、スウィングしてしまいました！お酒と音楽は最高ですね。もも★たろうさんのおっしゃるとおり「困ったことがあっても何とかする！」と思わせてくれる応援ソングです。
クラシック	ym	Yiruma「River Flows in You」	簡単なフレーズでありながら、人の心を癒す曲。コロナ禍に、韓国のバラエティを拝見していた時に、ゲストでYirumaさんが「River Flows in You」を弾いているのを聴いたとき、心が癒された。	大変美しい曲ですね。心象風景を音で具現化されたような感覚に陥ります。とても癒されますね。
クラシック	Happy free	マイケル・ナイマン「The heart asks pleasure first」 映画「ピアノ・レッスン」より	映画館で「ピアノ・レッスン」を観たとき、全編に渡り流れていたこのメロディーがとても印象深く、暫く頭の中で鳴り続けていました。広い海岸に黒いグランドピアノが置かれているという映像は、当時の私は想像を超えた新鮮さ、斬新さに触れました。忘れられない作品です。	マイケル・ナイマンの映画音楽は秀逸ですね。ピアノ・レッスンは美しい旋律の中に悲しさや、そこはかとない力強さや激しさも感じます。ナイマンの楽曲は好きで、ナイマンバンドのコンサートに何度か行きました。
クラシック	エトワール	ショパン「fantasy in F minor op49」	落ち着くのに気分が上がる一曲です。	序奏からの展開、段々と気分が高揚していく感覚、わかります！何か一連の物語を感じる1曲ですね。
クラシック	山ちゃん	ヨハン・シュトラウス1世「ラデツキー行進曲」	正月のウイーンには欠かせない曲	お正月と言えばこの曲ですね！とても晴れ晴れとした気持ちになります。今年のバレンボイム指揮のニューイヤークンコンサートも話題でした。
クラシック	なお	エルガー「Nimrod」	英国留学中、よく聞く機会があったので。人を描いた曲だと思っておらず、信仰を表しているのかと思っていました。エルガーの中で1番好きです！	大変美しい曲ですね。エルガーが、友人を描いた曲だったんですね。エルガーは偶々付けたラジオから流れてきたチェロ協奏曲に鳥肌が立ったことがあります。ジャクリーヌ・デュ・プレの演奏でした。
クラシック	M	Yoshiki「Say Anything」 アルバム「Yoshiki Melodies Classics」	こんにちは。私はアルバム「Yoshiki Melodies Classics」に収録されているSay Anythingという曲が好きです。数年前、ニューヨークのカーネギーホールで、Yoshikiさんのピアノコンサートがあり参席しました。オーケストラとのコラボレーションによる、Say Anythingの演奏は、荘厳でゴージャスな気をまといとても素晴らしいものでした。ロックな曲でドラムを叩いていた、ピアノを弾きながら雨に打たれていたりと、激しく情緒的な雰囲気の影響をもつYoshikiさんですが、カーネギーホールのステージ上のYoshikiさんは、クラシック界の方のふるまいそのもので、とても素敵でした。そして、なんと私の目の前の席には、楽天の三木谷さんが座っておられました！幕間に廊下ですれ違ったときに目が合ったので、会釈したら、会釈し返してくれました！ニューヨークの地で、日本人が活躍している姿や、日本の有名人と普通にすれ違う環境に出会えてとてもうれしかったです。	カーネギーホールでのYoshikiさんのピアノコンサート、羨ましく思います。YouTubeで当時の様子を少し何か知ることができました。リアル会場ならではの臨場感、雰囲気は何物にも代えがたいものがありますね。ましてやカーネギーホール、一度体験してみたいです。
クラシック	キロカロー	マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ間奏曲」		あまりにも美しい旋律で有名なこの曲。海外、日本の数多くのオーケストラ、ピアノだけで演奏しているもの等、聴き比べてみました。それぞれ全く印象が変わり楽しめました。「聴き比べ」新しい発見でした！
ジャズ	Midori1218	Bill Evans Trio「My Foolish Heart」	高校生頃に背伸びしてジャズを聴き始め、最初に買ったアルバムがビル・エヴァンスのWaltz for Debbyでした。アルバム全体が素晴らしいのですが、A面1曲目を挙げさせていただきます。	最初に買ったのがこのアルバムなんて素敵です。エヴァンスの優しく切ない、詩的なピアノの音色、ベースもドラムも最高ですね。秋の夜長にずっと聴いていきたいと思います。
ジャズ	Hiro	The Crusaders featuring Randy Crawford「Street Life」	通か学生時代に少しクルセイダーズをかじった後は暫時忘れていましたが、タランティノの映画「ジャッキー・ブラウン」でその格好良さを再認識。クルセイダーズの音はもちろん、ランディ・クロフォードのボーカル ほんと堪りません！	カッコ良すぎです！このグルーブ感最高ですねランディ・クロフォードのボーカルも堪らないです。今聴いてもまったく遜色ない、いや勝ってます！
ジャズ	Yoshi.M	キース・ジャレット「Whisper Not-Live in Paris 1999」	ケルンコンサートとはまた違った、解放的なキースジャレットが大好きです。	実は、ケルン・コンサートは体調不良の時に聴くと少し気が滅入ってくるのですが(苦笑)、ゲイリー・ピーコックのベース、ジャック・ディジョネットのドラム、このトリオのライブは最高ですね♪1日中聴いていたくなります。
ジャズ	風と音と色①	エディ・ヒギンズ・トリオ「懐かしのストックホルム」	コロナ元年がなんとか終わり2021年が始まったばかりの頃、東京の澄みきった冬空には飛行機が一日に数えるほどしか飛んでいなかった。ヒルズライブラリーのラウンジの南東方向に見える羽田空港。以前ははっきりなしに飛び立つ飛行機から首都の活気が伝わってきたのに、コロナ2年のこの巨大都市の空はとても静かだった。こんな静かな東京の空はもう二度とないのだから、東京中の高層ビルの屋上で風揚げ大会をしようと思う、空に伸びる無数の尻尾を思い浮かべてみた。そんな静かな東京を望むヒルズ49階の静かなラウンジに、一日に何度となく流れていたのがこの曲。活動を休止してしまっただけの頃の東京の空と海と高層ビルの映像に流れるそのBGMはとても美しかった。誰が弾いているピアノなのだろう。スマートフォンを天井のスピーカーに向けて検索してみた。エディ・ヒギンズ。知らないピアニストだった。それから一年後。コロナ3年のこの冬も49階のラウンジで、静かだったこの頃の空を少し懐かしみながら、この曲をヘッドホンで聴き、PCに向かっている。	Lounge49では、スカパーのBGMチャンネル「スターデジオ」のCh.462「インテリアジャズ」を流しています。エディ・ヒギンズ・トリオの「懐かしのストックホルム」いいですね。どことなく懐かしくせずない気分になります。風と音と色さんがこの曲を聴きながらラウンジで過ごしている時間に思いを馳せつつ、ふと立ち寄ったNYのライブハウスでこの曲を聴きながらグラスを傾け。。妄想列車が止まりません！
ジャズ	風と音と色②	ラムゼイ・ルイス「オルフェのサンバ」	コロナ3年、2022年が始まった。コロナ戦争はまだ終結せず、オミクロンとの新たな紛争も始まってしまった。でも、ヒルズ49階のアカデミービルから見下ろす冬の東京は、1年前に比べて少しさわさわとしていて、再び動き始めているような気がする。ヒルズライブラリーのラウンジから見える南東の空には、羽田空港に離着陸する飛行機が以前のように飛び交い始めている。その光景を見ていると、なんだか元気が出てくる。このラウンジに流れる1年前のヘビーローテーションはセンチメンタルな『懐かしのストックホルム』だった。今年は、この曲が何度も何度も流れている。前へ前へと前のめりでも進んでいく、躍動感のあるピアノ。同じくらいヘビーローテーションで流れているマッコイ・タイナーの『サテンドール』も、元気が出てくる。センチメンタルから躍動感。とてもいいヘビロテの選曲だと思った。このラウンジの選曲は誰がやっているのだろう。社会の雰囲気や反映しているようなヘビロテの選曲。偶然なかもしれない。でも、偶然もセンスがないと偶然にはならない。来年はこのラウンジでどんなヘビロテが聴けるのだろう。楽しみだ。	ラウンジの選曲に関して、温かく寛容なコメント、ありがとうございます。今、ラムゼイ・ルイスを聴きながら、このコメントを書いています。わたしの頭の中には49階のラウンジから見える、羽田空港、離着陸する飛行機と、そこに行きかう人々のワクワクした気持ちが想像されています。同じ思いを、一つの音楽を通して共有できる、そんな感覚に酔いしれています。
ジャズ	New	Juliette Greco「Ta Jalousie」 作曲：Gerard Jouannest アルバム：La Chanson Des Vieux Amants	最近のROCKやPOPSにない刺激を求めていた私が、たまたま訪れた大阪の老舗ジャンズニエ・ジルバール・ペコーにて「こういうの聴いてみたら？」とお勧めされたのが、ジュリエット・グレコでした。それを契機に彼女の曲を聴くようになり、出会った一曲。1971年の曲なのに古さが無く、椎名林檎的“斬新な”世界観を感じさせる・・・若い人の音楽はいつの時代も若さが魅力、それはもう、古い事です。過去に遇れば新曲に出会える。そういう気づきを与えてくれた名曲。	過去に遇れば新曲に出会える。そう、新しいものは必ずしも未来だけにある訳ではないことに気がかかっています。椎名林檎的とは言い得て妙。椎名林檎がトータス松本とデュエットした「目抜き通り」はまさにジュリエット・グレコの世界だと思いました。
洋楽	Koko	Sting「Fragile」	仕事が大変だった時に聞いていた音楽です。Stingのコンサートは毎回行きますが、必ず最後に演奏する曲で、聴くたびにその頃の事を思い出します。ただ、何回聴いても飽きません。	この曲は私もStingの曲で一番好きな曲です。物悲しいギターの旋律、なんて人間はもろいのだろうか。。聴くたびに様々な思いが過ります。スパニッシュヴァージョンもいいですね。
洋楽	高泉光男	Unlike Pluto, (feat. Mike Taylor)「Everything Black」 Monstercat Release	コロナ禍、緊急事態宣言の中、良く聴いてました	コロナ禍の緊急事態宣言の中で良く聴いていた、というのが印象的ですね。テンポよいリズムで迫ってくるBLACKが印象的です。
洋楽	ぼぼ	エルトンジョン「タイニーダンサー」 アルバム：Almost Famous	いまひとつ有名になりきれない人気バンドに付いて旅をする女の子が主人公の映画almost famous挿入歌。きれいなピアノのメロディで始まり、ツアーで疲れたメンバーたちが遠い目をしながらバスにゆられて歌詞を口ずさむシーンが、彼らのぼんやりした不安と期待を映し出して忘れられない。エルトンジョン自身のアメリカ進出時の心情を歌にしたものらしい。	アメリカという大地が生み出したものの中に、若者の憧れと期待、不安と孤独があり、その発露として、このような甘く切ない楽曲を得ている、そんな気持ちになる選曲でした。
洋楽	sazareishi	Carpenters「Yesterday Once More」(アルバム Now & Then)	他に挙げた邦楽2曲はリック重視だと思いますが、このCarpentersの曲だけは声が入りました。小学生の時に親が車で流して、思わず背中が電気が走ったのを感じています。カレンは20世紀で最もきれいな声をしていて今でも思っています。	Carpentersのベスト盤、車中でいつも聴いています。カレンの歌声は美しく、どこか物悲しく心に響きますね。When I was young and listen to the radio, waiting for my favorite song〜も最高です♪
洋楽	稲葉誠	ピーター・ポール&マリー「天使のハンマー」	学生時代の思い出。来日したピーター・ポール&マリーに楽屋で会い、サインをもらいました。フォークブームの先駆けでした。	サインをもらった！素敵なお思い出ですね。音楽が実体験と結びつくことで、その音はより深く身体に染みわたる、自身の一部になりますよね。
洋楽	COCO	U2 + Gospel Choir「I still haven't found what I'm looking for」	ごたぶんにもれず鬱々としていた2020年、動画サイトでみつけて、繰り返し聴きました。コロナ前の2019年に来日コンサートに足を運び、感動したU2。その名曲に、趣味で習っているゴスペルのパワーが重なって、何故か気分がすっきり。聴いてみてください。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=M8Wt3dhF4fU">https://www.youtube.com/watch?v=M8Wt3dhF4fU</a>	THE JOSHUA TREE TOUR 2019、私も行きました！鳥肌が立ち、涙出そうでした。U2 + Gospel Choir、素晴らしいですね。元氣もらえます！
洋楽	sally	ホイットニー・ヒューストン「Greatest Love of All」	ホイットニーの曲は全て好きですが、特にこの曲はスケールの大きさを感ずります。長女が生まれてから誕生日には毎年好きなFM局のDJの方に流して頂いていました。	初めて聴いたとき、歌の上手さと迫力に衝撃を受けました。歌詞に「自分自身を愛すること。それを学ぶことがこの世の最高の愛なのよ。」とありますが、娘さんも愛に包まれてお育てですね！
洋楽	オレンジ	ステイビーワンダー「心の愛」	社会人になって代々木公園でゴスペラズが歌ったステイビーワンダー「心の愛」を聴いて出会いました。25年前のこの出会いから私はすごくすくわれました。	ゴスペラズがステイビーワンダーの名曲「心の愛」をアカペラで歌う光景を想像するだけで鳥肌が立ちます！一曲の歌に人生を後押しされる。今回の音楽企画で皆様からそのことを教わりました。オレンジさんの様に、私もまさに奇跡の瞬間に遭遇する曲を探していきたいと思っています。

私と音楽 ~ みんなの「おすすめ1曲」~ (WEB投稿分)

洋楽	K	Mikael Gabriel「Kipua」	ヘルシンキ滞在中にホテルのラジオから流れていた曲です。フィンランド語はほとんど分からず、ラップも興味がなかったのに、美しいメロディが忘れられませんでした。その後、曲名と歌手を調べ、痛いくらい切ないMVも見つけました。心の葛藤や苦悩を吐露したような歌詞も素晴らしい、今ではお気に入りの1曲です。	ヘルシンキと聞いてしまったせいもあるでしょうか、北欧の土地の美しさや楽曲が頭の中で重なりました。この細く突き刺さるような女性ボーカルの声がとても印象的です。
洋楽	caru	George Michael「A Different Corner」	「とても好きな人がいるけど、想いを伝えると今の関係を失ってしまう」メロディーの美しさだけでなく、歌詞の内容が実際の私自身の気持ちにぴったり当てはまっていて、美しさと悲しさの両方を感じられる曲です。大切な友達としての友情を絶対に崩したくないけど、魅力的な異性としての愛情も同時に芽生え…愛する気持ちがありながらも友情を選んだ葛藤を、この曲を聴きながら感じています。	caruさんの投稿にジーンとしてしまいます。美しさと悲しさの両方がある、がゆえに印象と心に残る、はとでもよく分かります。友情だから成せること、愛情だから得れるもの、その二つが確かにある、そんな気持ちになりました。
洋楽	しろ	The Fugees「Can't take my eye's off you」	ひとつつて難しいですね。人生最後の日に何が食べたいか…みたいな。選んだのは、邦題「君の瞳に恋してる」のフーズのカバーバージョンです。軽快さがなんとも心地よく、恋愛初期のドキドキ、周りが見えなくなるような、世界がハッピーに感じるような、そんな忘れてた感覚を思い出させてくれる曲。学生の頃のサマーキャンプの思い出がよみがえってきます。初めて聴いた時、いつか結婚して、パーティーを開くならこの曲をかけたい、と心に秘めたままそんな予定はまだない…苦笑。	「君の瞳に恋してる」にこんなバージョンがあったとは！知らなかったです。サマーキャンプでファイヤーストームを囲みながら、この曲を聴きたいですね。そして、、、結婚のパーティーで、この曲がかかったら、みんながジーンとしちゃう気がします。素敵です。
洋楽	Ellie	エンヤ「A Day Without Rain」	透き通るような歌声と吸い込まれそうなメロディーに衝撃を受けたエンヤとの出会いのアルバムでした。	確かに、一度聴いたら忘れられないエンヤの透きとおった声と音楽は「妖精の国」と呼ばれるアイルランドを思い出させます(具体的にはロードオブザリングの世界?)今聴いても癒されます！
洋楽	まるこ	カルチャー・クラブ「カーマは気まぐれ」	何十年前の中学生の頃、ボーイジョージのことを知らずにこの曲の頭に残るメロディーに興味を持ち始めてCDを買いました。CDのジャケットである初めてお化粧をする男性(ボーイジョージ)を見た衝撃は忘れられません。大人になり、歌詞の解釈を見て、1984年の曲なのに今も通じる彼の想いが曲にのせられているなど今でもときどき聞いています。	この曲を知っている人は多いのではないのでしょうか？久しぶりに聴きました。懐かしい！大人になってでもドキドキしながら聞ける音楽との再会に乾杯！！投稿ありがとうございます。
洋楽	タルト	SWEETBOX「EVERYTHING'S GONNA BE ALRIGHT」	それまで洋楽はどれも同じに聴こえてたのですが、クラシックと組み合わせてポップでダンシングな曲に仕上げてる新旧の組み合わせが面白いなと思いました。表現の方法はいくらでもあるんだ！と開眼したといえます。	パッパ・G線上のアリアが、タルトさんのおっしゃるとおり、ポップでダンシングな曲に変貌し、新しいメッセージ性を持って届くことに驚きますよね。表現の方法はいくらでもある！に深く同意します。
洋楽	om	New Kids on the Block	学生時代に英語に興味を持つきっかけになった。	私は当時、高校生でしたが、女子にとっても人気があった事を鮮明に覚えています！NewKidsから英語に興味を持った人、多いのではないのでしょうか？
洋楽	KM	ベン・E・キング「スタンド・バイ・ミー」	1970年代生まれの私は、映画『スタンド・バイ・ミー』の登場人物たちと重なり、強く印象に残っています。映画そのもののストーリーより、この主題歌を聞くことで、映画を受けた印象がより純粋な感情で思い出されます。	「スタンド・バイ・ミー」はジョンレノン等、いろいろな方がカバーしていますが、当然ベン・E・キングが一番しっくりきます。曲中に終始「シュッ」という音がありますがスネアドラムをワイヤブラシでこする音らしいです！久しぶりにこの曲を聴いて、映画、見返してみたくまりました！
洋楽	風と音と色③	Fools Garden「Lemon Tree」	2021年、コロナ禍の東京でそれまでのルーティンどおりの日々が過ごせなくなっていることにいたたまれなくなり、車にPCや本や仕事関連のもの、ビールを積んで京都に逃げた。中央区の小さなホテルの客室は、学生の勉強部屋のように居心地がよかった。京都のFM局「α-STATION」に「モーニンググリッド」というとても選曲のいい番組が昨年3月まで放送されていた。DJの三嶋真路さんのテンポのいい語り口によって、センスのいい音楽や本の紹介が流れてきた。この曲は学生の勉強部屋のようなホテルの客室で聴いた、そのラジオ番組で知った。ビートルズにどことなく似ている歌声とメロディーが胸にぐとくる。そして、何かが起こると思っているのに何も起らない。青い空について語っているのに、見えるのは黄色いレモンツリーだけ、と歌う歌詞が、コロナ戦争の中で閉塞感から孤独になっているこの時代の人たちの気分を歌っているようで、胸を打つ。これはコロナ戦争への静かな反戦歌だと思った。27年も前に作られた曲なのに。	青年期に求める自己解放と、しかし現実にある閉塞感。その調和を上手く表現している曲だと思いました。そして、そこにレモンツリーは希望としてある。その酸っぱい香りさえも、切なく感じる楽曲ですね。コロナ戦争への静かな反戦歌というご指摘にもハッとします。
洋楽	風と音と色⑥	ビートルズ「ベニー・レイン」	ヒルズ49階のライブラリーのカフェから、東正面の飯倉片町の交差点で工事が進む高層ビルが見える。2020年の3月頃、コロナの影響で屋間からライブラリーに来ることが多くなり、カフェの窓際に座って、クレーンが何基も立てられたそのビルを眺めていることが多かった。そういう時、その工事現場の下で、リパールのあんなちゃん達だった十代のビートルズのメンバーがたむろして遊んでいる映像を思い浮かべた。港町リパールの殺風景な風景と、工事現場の殺伐とした風景。十代のバンド仲間が遊ぶのにぴったりな居場所だと思った。そのころNHK-FMで1年間にわたって放送されていた「ディスクカバー・ビートルズ」という番組を、よく飯倉片町のビル工事を眺めながら、聴きのがし配信で聴いていた。その番組でこの曲が流れた。リパールにあるベニー・レインという通りの様子を歌っている。まだあんなちゃんだった4人も歩いた、彼らにとっては近所の通りだ。六本木ヒルズに張り合うように工事が進むお向かいのビルの下にたむろする六本木のあんなちゃん達も、きっといつかビートルズと張り合うようなミュージシャンになったりするだろう。大好きなビートルズが、あのビルの下で遊んでいた。そう想像するだけでうれしくなる。だから、大好きな『ベニー・レイン』を聴きながらあのビルを眺めるのが、好きだ。ビートルズは六本木のあんなちゃん達だったから。	素敵なコメントありがとうございます。ビートルズといえばリパール。そしてそのリパールを、変わりゆくある六本木と重ね合わせ、立ち上がる叙情に音楽の深みを感じます。
邦楽	Kappy	①菅田将暉「ロングホープフィリア」 ②綺香「THIS IS ME」	この二曲に共通して感じる事は、『これまでの自分がどんなであれ、今ここにいる自分を信じよう』という強い決意。何があっても生きてさえいければきっと大丈夫！と思わせてくれる大好きな曲です。	好きな曲ってその時の自分に言ってほしい言葉だと思うのです。自分を信じて前に進めー！
邦楽	sazareishi	①家入レオ「Bouquet」(アルバムDUO) ②hide with Spread Beaver「ROCKET DIVE」(アルバムJa,Zoo)	①家入レオ本人の作ではなくてSoulifeの提供曲なのですが、リリックを大事にする家入さんの世界観とマッチしていて、歌詞がスッと入ってくるのです。2019年のLiveツアーのラストナンバーで聴けたのもとてもよかった。 ②元々X JAPAN時代からhideは好きでしたが、遊び心の混じったソロ活動も好きです。その中でもこの曲は「何にもないって事 そりゃなんでもアリって事 君の行きたい場所へ何処でも行ける」という歌詞が高校生だった私にササりました。	家入レオさんの声って女性なら誰でもあこがれる声ですね。彼女が友人で、この歌を自分のために録音してくれたら、号泣するだろうなあと思ってしまう。(ありえないけど許して！)
邦楽	ひろりん	Superfly「Beautiful」	とても素敵な歌詞が、Superflyさんの圧倒的な歌声によって真っ直ぐ心に届きます。落ち込んでいたり自分に自信がない時、自分は自分のままでいいんだと背中を押してくれる曲です！	「世界で一つの輝く光になれ 泣いてもいい 私を歩いてゆくのか」とのびやかな声で力いっぱい応援してくれてパワーがもらえますね！毎日聴きたい曲です！！
邦楽	DanGomushi	Roth Bart Baron (アルバム：無限のHAKU)	何とも言えない透明感と民謡チックなグループがハマります。仕事しながらでもいいですよ。	聴いている間、ふわふわした音楽の霞の中、ゆるっと彷徨っているような不思議な感覚でした。緊急事態宣言下の若者たちへのメッセージらしいです。
邦楽	ジョージ	P-MODEL「美術館で会った人だろ」	日本語テクノポップの金字塔。すし詰めのライブハウスで聞かべべき曲。ピンクのカラーレコードを捨ててしまったのが悔やまれる。	検索して動画を見て、衝撃！を受けました。耳に残りなんだかまた聞きたくなってしまいます。私にとって「新しい音楽との出会い」になりました！
邦楽	みらい	中島みゆき「時代」	青春して楽しかった学生時代を思い出しつつ、哀愁も感じ未来に向かって生きよう。という気持ちになります。	しみじみと聞きたい名曲ですね。中島みゆきさんが22-23歳の頃作られた作品と知り驚きました。哀愁の中に未来へ向かう気持ちになる、本当にそんな曲ですね。
邦楽	M	THE YELLOW MONKEY「プライマル。」		実はTHE YELLOW MONKEYさんのことをよく知らなかったの、曲を聞くとともに調べてみました。「プライマル。」とても重要な曲ですね。
邦楽	うっきー	SMAP「世界に一つだけの花」 作詞作曲：横原敬之	人と違ってもいいんだよ、はよく言われる言葉です。この曲ではそれに加えて、人と違うこと(個性)が素晴らしいということを称え、自然体で生きていいのだということ、を、みんなに気負いを感じさせずに伝えていけるから。	ちょっと疲れてしまったとき、優しく心に染み入る曲ですね。聞いていると気持ちが軽くなります。頑張りがすぎずしてすべての方へ贈りたい！
邦楽	りんりん	玉置浩二「愛なんだ」	玉置浩二さんの歌唱力はもうすごいなんでものじゃなく、人間の限界も超越した「楽器」だと感じます。そこに至るまでの努力や精進を想像すると「向て私はまだまだなんだろう」と絶望的な気持ちにさえなってきます。けれども、まだまだだからこそ、今できる事を少しずつ積み上げよう。また限界の向こう側に自分も行ってみよう、自分の仕事で人を感動させてみたい、とも思います。そんな玉置さんの曲の中でも「愛なんだ」は明るくてポジティブな気持ちのまま素晴らしい曲だと思えます。	玉置さんが歌うと「愛なんだ」もカッコイイオトナの曲になりますね。安全地帯で玉置さんの歌声を聴いたとき、その繊細さが外見とのギャップで際立っていましたが、年齢を重ねた今、偉大な日本のスターとなられましたね。
邦楽	わぐねる	Official髭男dism「宿命」	20年の第1回緊急事態宣言下はヒゲダンにはまって、毎日アレクサでジャッフル再生して聴いていました。弾けもしないのに公式ピアノ楽譜も買ったし。全曲好きですが、特に「宿命」は青春を思い出して甘酸っぱい気持ちになるのと、背中を押される感じがします。	ピアノ楽譜も買われたとは、とことんハマったのです。曲も、歌詞も一字一句が考え抜かれていて素晴らしいです。「宿命燃やして 慕れだすだけ」「宿命をかざして 立ち向かう」の歌詞からは、自分が高校生で悩みもがいていた時を思い出しました。髭男ばんざーい！

邦楽	浩三	玉置浩二「納屋の空」	おそらくあまり有名な曲ではないのですが、日本一歌がうまい（と私は思っています！）玉置浩二さんの歌唱力をこれでもかと思わせられる一曲です。冒頭とても静かに始まるのですが、後半にかけてどんだらマチックに、エモーショナルになっていく曲展開が圧巻です。単に「上手い」だけでなく、声から溢れる感情や切なさも必聴です。決して有名な曲でも派手な曲でもありませんが、ぜひ多くの人に聴いていただきたい一曲です。	ライブラリーには玉置さんのファンの方が多いですね。安全地帯時代しか知らなかった私。今回初めて聴いた曲です。最後は玉置さんのシャウトが印象的。オトナがしみじみ聴いて感動する歌です！
邦楽	風と音と色④	あいみょん「憧れてきたんだ」	コロナ禍の東京から、いろんなことに集中する時間を求めて行った京都。毎日中京区の小さなホテルから、岡崎にある葛屋書店の3階に通った。3階はパブリックスペースなのか、葛屋書店に入っているスターバックスの客席なのか、書店の客のための閲覧室なのか、曖昧模糊とした場所で、大きなテーブルが二つあり、受験生らしき人が数人、レポートを書いている大学生らしき人が数人。PCに向かって集中するのに最適な場所だった。 毎朝、ヘッドホンで音楽を聴きながら歩いて通った。観光客がまったくいない京都の街は、日本語の歌詞を聴き込みながらゆくり歩くのにぴったりだった。この曲も、二条通りを岡崎に向かって歩く時に、何度も聴いた。あいみょんは、絵の具のように言葉を使う。言葉の感覚がすばらしい人だと思う。この曲は、荒っぽい言葉使いが詩人のようだ。今は墓の中に眠っている憧れのロックスターを「掘り起こせ 掘り起こそう」。すごい歌詞だ。彼女の弾くギターの荒っぽさもとてもいい。いまやメジャーになったあいみょん。変わらず詞も曲もすばらしい。でも、もう一度こんな荒っぽい言葉づかいの曲を聴きたいな。	あいみょん いいですね。この歌は初めて聴きました!絵の具のように言葉を使う。。。まさにその通りです!私は「裸の心」が好きでいつ聴いても「恋がしたいなあ」と甘酸っぱい気持ちになりますね。風と音と色さんと、あいみょんでつながることができて嬉しいです!
邦楽	風と音と色⑤	加川良「下宿屋」	2020年のゴールデンウィーク前、私たちは初めてコロナという厄災に直面した。夜には、新宿駅や東京駅から人がいなくなり、ゴーストタウンのようだった。その頃、杏さんが加川良の『教訓1』という曲の弾き語りをYouTubeで流した。命を捨てず生き延びようと思った反戦歌を、コロナとの戦いに重ね合わせて歌う映像を視聴した人も多く思う。ギターを弾く杏さんの後ろで、彼女の子どもが静かに絵本のページをめくっている姿が、とても印象的だった。 『下宿屋』とは違い、京都で暮らすひとりの青年の心象風景を、私小説のような歌詞で歌っている。2021年に京都に滞在した時に、歩きながらよく聴いた。とらえどころのない歌詞だけど、この曲のテンポは京都を歩く時のメトロノームのようだった。	その時代と場所と音楽が結びついて自分にとって特別な思い出になりますよね。昔心の中にずっと大切にしまっています。ご紹介いただいた「下宿屋」しみじみと聴かせていただきました。これからは旅先を訪れた時に自分の頭の中に流れてくる音楽は何かを楽しみたいと思いました。
邦楽	風と音と色⑦	坂本龍一「the land song-music for Artelligent City」	アカデミーヒルズの音楽企画で絶対に抜きに出来ない曲、それは坂本龍一さんのこの曲ではないでしょうか。2003年のゴールデンウィーク直前に六本木ヒルズがオープンした時、本当にワクワクしました。東日ビルの隣にあった六本木WAVEもワクワクしたけど、六本木ヒルズはもっとワクワクしました。そして、六本木ヒルズのテーマ曲としてオープン時のヒルズの中で流れていたのがこの曲でした。なんて知的で胸にぐっとくる曲なんだろうと、聴いていてとてもうれしくなりました。 すぐにヒルズライブラリーに入会しました。こんな曲が流れる中で本を読んだりできるんだ。今でもこの曲を聴くと、その時のハッピーな気持ちを思い出します。 この曲は、声高に六本木ヒルズのグランドオープンを歌いあげるのではなく、ヒルズに集まる人たちの多様性を柔らかく包み込んでいる曲だと思います。 この年末年始、PCに集中して緊張している気持ちをときほぐしたくてヒルズの中を散歩した時、館内にこの曲が流れていました。ひさしぶりに中学の同級生に会ったような気がしました。オープンの頃の気持ちが蘇りました。 この曲は、アカデミーヒルズの校歌だと思います。 ちなみに、この校歌がはいったアルバム『CHASM』の冒頭の『undercooled』も、六本木ヒルズらしいとてもいい曲だと思います。 この春、坂本龍一さんは、音楽監督を務める「東北ユースオーケストラ」の、岩手、宮城、福島、東京での連続コンサートで、指揮をする予定です。全部の公演に行きたくありません。我が校の校歌の作曲者のたどり着いた音に、しっかりと向き合って来ようと思います。	この曲が流れてから、すなわち六本木ヒルズがオープンしてからもう19年が経つんですね。アカデミーヒルズの校歌と云ってくださり光栄です。こんな風に六本木ヒルズ、アカデミーヒルズを大切に思ってくださいる皆様がいってくださることを実感でき、この音楽プロジェクトを企画してよかったです!と思いました。このたびはすばらしいコメントをありがとうございます。